## (別紙様式)

## 令和 4 年度 学校自己評価システムシート (東京農業大学第三高等学校・同附属中学校)

1 主体性を重視する教育活動を展開する。 2 部活動の強化により、学校に活力を与える。 3 生活指導を徹底していく中で、地域社会・国際社会から信頼される人材を育成する。4 私学としての特性を生かし、生徒・保護者の満足度を高める学校改革を進める。 目指す学校像 5 志願者を増加させ、定員の確保をめざす。 6 財政の健全化を目指すなかで、生徒への教育サービスを向上させる。 7 授業力のさらなる向上を目指す。

1. 外部研修・他校視察・生徒による授業評価・研究授業を通して、授業力の向上を図っていく。

2. 学年・教科・コース・クラブ活動・学校行事等の連携を強め、すべての教育活動で主体性を重視していく。

4. 志願者を増加させ、定員の確保を目指す。

A ほぼ達成(8割以上) 達 B 概ね達成(6割以上) 成 C 変化の兆し(4割以上) 度 D 不十分(4割未満)

<学校評価委員構成>

学校評価委員 10名 事務局(教職員) 4名

	※ 番号欄は重点目標の番号と対応さ		評価項目に対応した「具体	的方象	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						_	1		
			学		校自		己評		価				学	校関係者評価
		年	度	E	標				年度評価 (令和 )	5 年 3	3 月 3 1 日 現 在)		評信	西会議開催日 令和5年5月13日
番号	現状と課題		評価項目		具体的方策		方策の評価指標		評価項目の達成状況	達成	度 次年度への課題と改善策		達成度	理由・意見
1	生徒の学力と進学実績の向上のために、教員の教科指導力・進路指導力・生徒指導力を向上させることを目指す。 生徒による授業評価、他校視察を含めた教職員の内外の研修会への積極的な参加、研究授業や授業参観および FD の外部評価の実施と研鑽と情報の共有化と検証を行う。	2	教科指導力の向上 進路指導力の向上 生活指導力・学級経営 力の向上	2	生徒による授業評価と外部機関の分析会の開催。他校視察も含めた内外の研修会参加と教職員間での情報共有。研究授業の計画的実施と教科会議での検証・授業内容や定期テスト・講習への工夫・改善。教職員へのFDの実施。 進路意識の向上・入試に関する研修の積極な参加と学年・教科・コースによる情報交換。スタディプラスの入力と記載状		授業改善への取り組み・研修会への参加と報告内容・授業見学・参観数・FD評価者による評価と各自の研鑽により、授業アンケート結果・模試や大学入学共通テスト結果に改善が図られているか。進学実績の年度別累計比較と指導内容別の振返り基本的生活習慣全般の評価	2	授業アンケート結果で90ポイント超え教員数が増加し、授業力の改善は図られている。大学入学共通テストの全国平均にだせていない。 国公立大学合格者数が昨年の28名から23名と減少したが、首都圏難関国公立へ総合型選抜で合格するなど取り組みへのは果は出ているものと判断できる。生徒への指導を組織的に取り組	В	同じの情報共有と数値目標を設定する。タブレット等の ICT 機材の活用も含めた授業展開の計画を立て実行する。計画の目的を生徒と情報共有することで、授業に臨む意義や姿勢を構築していく。			おおむね達成している。教科会議での検証は進んでいるが、学校全体での情報共有が今後の課題である。  ほぼ達成している。数字的には未達の部分もあるが、進路目標達成のためにチームで取り組んでいる成果が出ている。入学した一人ひとりの生徒を大切に育てていくという姿勢を感じる。
					己の確認、二者面談の実施。				み、一人一人の実情を共通認識 し、保護者生徒の満足度を高め る工夫をした。特に高校3年生 の進路決定率は95.9%(昨年 96.2%)で安定的に高水準を維 持している。	A	③ 生活リズムの改善と家庭学習の定着の徹底を図る。自習室・学内塾・学内予備校の活用により自己学習の習慣を身につける。		-	おおむね達成している。スタディプラス、スクールライフ手帳の活用により家庭学習状況を把握し、年3回の二者面談週間で生徒個々の実情に応じたアドバイスを提供できている。
	I・Ⅲ・Ⅲ・中高一貫の各コースの現状認識と改善点を列挙し、さらなる教育目標の到達や教育内容の充実を再検討する。学年主体の横軸の教育活動に加えて、コースが3年間(中高一貫コースの場合は6年間)を見据えた縦軸の教育活動を展開していくことで、生徒一人一人の希望進路実現に寄与していく。グローバル教育・実学教育・学内完結型教育の充実を図る。	2	生じた課題の発見と解 決策の検討 生徒にかかわる様々な 部署での連携を強めた グローバル教育・実学 教育・学内完結型教育 を含めた学校行事・特 別活動の実施	3	大学入試の実情に即し、かつ生徒の実力を更に伸ばす教育課程を検討・編成する。 主体的な学びの姿勢を構築するための企画・行事の実施。 部活動・生徒会活動の自主的活動を支援する。	2	容実施後の検証・評価 目標の設定とその実現方法の 検証・評価	2	新教育課程実施後の各教科単位 での課題発見と解決策の検討に より、教科主任会議等で改善点 を共有した。 教科・分掌間での連携強化を図 り、コロナ禍での諸行事・校外	А	① 新教育課程実施より生じた課題解決に向けて各教科で情報共有を図りながら対処する。探究学習・GIGA スクール構想の取り組みをさらに発展させる。生徒の自己学習の定着、進路意識の向上と進路		В	おおむね達成している。新教育課程実施 初年度に生じた課題解決に向けての迅速 な対応が期待される。
2						V · C • 7199 au. · at iiii			学習・グローバル教育・実学教育・学内完結型教育を実施した。生徒自らの創意と工夫により文化祭・体育祭等は実施でき	В	選択力の育成を図る。 ② コロナ禍での経験をいかし、コロナ後の校外学習、学校行事等を生徒会との連携を強化させながら、		A	ほぼ達成している。コロナ収束に向かう中で、創意工夫により様々な行事を実施していた。コロナを糧にした特別教育活動に期待が高い。
			動の活性化						た。 高校部活動は延べ 6 クラブが関 東大会・全国大会出場を果た し、大きな成果を上げた。	A	さらなる充実を図っていく。 ③ 学校行事・部活動等で創意工夫の 大切さを生徒に理解させ、主体 性・協調性・創造力を涵養する。		A	ほぼ達成している。強化クラブを中心と した全国大会・関東大会出場は高く評価 できる。他の部活動の活躍も目覚まし い。
3	様々な体験・実験・観察を通じて学びの本質を追究する「実学教育」をベースに教育活動を実施することを重視し実践している。中学では、東京農業大学食品加工技術センター・日本養殖振興会・トモノカイ・ISA等の支援を受ける。高校では、教科単位でのフィールドラーニング(校外学習)を展開する。	た科神・	学的・学問的探究の精 態度の育成を図る。	2	としての屋上菜園でのダイズ栽培と醸造体験(味噌作り)、養殖体験等を実施(中学)。 博物館研修における調べ学習とプレゼンテーションとフィールドラーニングの実施(中学)。フィールドラーニング(校外学習)の実施(高校)。	には、 は 教 RI	中学版フィールドラーニングで 遺跡散策という人文系要素の い新たな試みを実施。キャリア 育でも新プログラム「INTE N」を実施。改善が図られた。	た	〜③とも計画通りの実施。また、新な取り組みも展開した。	A	①~③とも、生徒の知的好奇心・探究心を涵養し、主体的な学習姿勢を確立するためには、民間企業・民間資本の発想を真摯に受け止め、「実学教育」と「知識の定着を図る学習」「学びへの姿勢」を融合させていく工夫と指導力が必要である。また、中高とも体験型行事の内容を精査し、特に中学では文理融合を柱にSTEAM教育の展開を志していきたい。		В	おおむね達成している。中学での体験型 学習、高校のフィールドラーニング等独 自の実学教育が充実しており、三高・三 中の特色ある教育として位置づけられ る。外部機関との幅広い連携を模索する ことも必要である。
4	中学・高校とも志願者を増加させ、入学定員の確保を図る。		高校 志願者数の増加 と定員確保 中学 志願者数の増加 と定員確保	2	改革の実行	2	教育改革の具体策を講じて、 その発信。 チラシを配布する数と方法、 公共交通機関やweb上での 広報活動の実施 体験型説明会の実施	ジ改願果	記の具体的方策に加えてホームペーをリニューアルするなど、多角的に 善策を実行した。結果、中高とも志 者数を増加させることができた。結 として高校は定員確保できたが、中 は3年連続の定員割れとなった。	В	本校が地域社会から期待されている教育内容・部活動等をより効率的に発信していくことが必要。受験生の地域別の状況等を検証し、緻密な募集活動が受験生増加へのカギと考えられる。中学入試が極めて厳しい状況であることに危機感を持ち、教育内容を整理し、参加可能な部活動の見直しを図り、将来的に安定感のある生徒募が展開できるよう策を巡らしていく。中高とも説明会の内容・実施時期と回数を見直し、発信方法を改善する。		С	変化の兆しが見える。高校の募集状況と 入学手続状況は改善したが。中学入試の 厳しい状況は継続している。改善しつつ ある進学実績、特色ある教育活動、活気 ある学校生活等の効率的な発信方法の検 討が望まれる。

6

(別紙様式)

(A3判横)